

おおくま

福島県大熊町
議会だより

2024

令和6年
11月1日発行

No.71

題 字：西山 陽菜さん（夫沢）

おおくまなつ祭り
ヒーロー参上



約2000人の来場者で賑わいました（大熊町役場前広場）

9月
定例会

令和5年度決算374億円を認定 ③

町政を問う 一般質問 ⑦

議員報酬は妥当 調査特別委が断下す ⑪

サークル紹介 大熊平馬会 ⑫



スマートフォン
でも見られます

33議案を議決

定例会のあらまし

令和6年第3回定例会は9月11日から20日までの10日間で開催されました。

第1日目に町長より条例制定および改正、財産の処分、固定資産評価審査委員会委員の選任、教育委員会委員の任命、令和5年度一般会計および特別会計決算認定、令和6年度一般会計および特別会計補正予算など33議案が提案されました。

第2日目は2人が一般質問を行い、復興の課題や新たな町づくりの提案をしました。

第9日目の本会議では条例制定および改正、令和5年度一般会計および特別会計決算認定など23議案を審議し、全議案とも原案通り可決しました。

最終日の本会議では令和6年度一般会計および特別会計補正予算など10議案、特別委員会最終報告議員派遣を併せて審議し、全議案とも原案通り可決し閉会しました。

なお、今回の傍聴者は延べ11人でした。

令和5年度実施した主な事業



再生賃貸住宅整備促進事業

帰還、移住・定住の促進を図るため大野南地区および原地区において再生賃貸住宅を整備しました。

24億
47万円



産業交流施設整備事業

地域の産業創出のため大野駅西口に産業交流施設を整備しています。12月完成予定です。

30億
1774万円



保健センター改修事業

赤ちゃんから高齢者の方が集う場として、保健センターの改修工事を実施しました。

2億
7379万円



インキュベーションセンター施設整備事業

町民の交流などを目的として、グラウンドを整備しました。

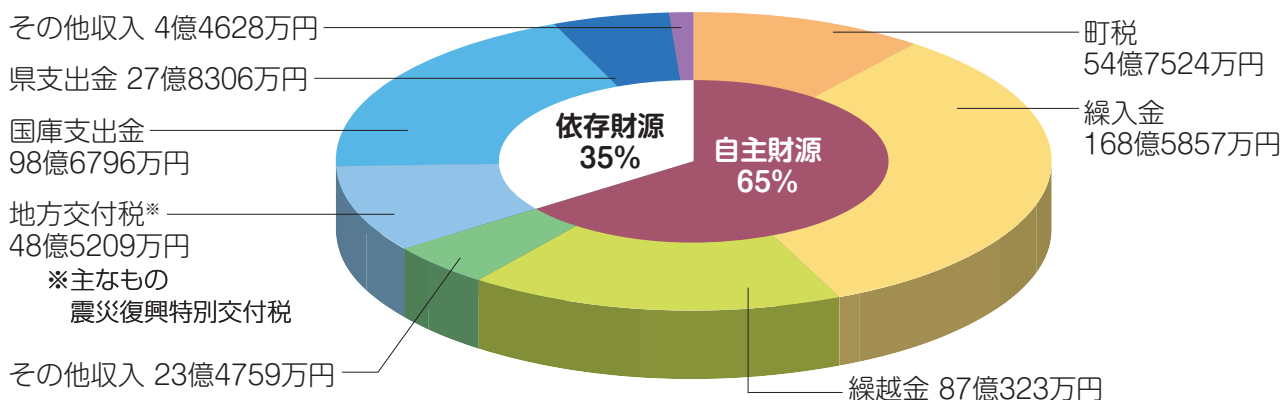
5億
2552万円

(万円未満四捨五入)

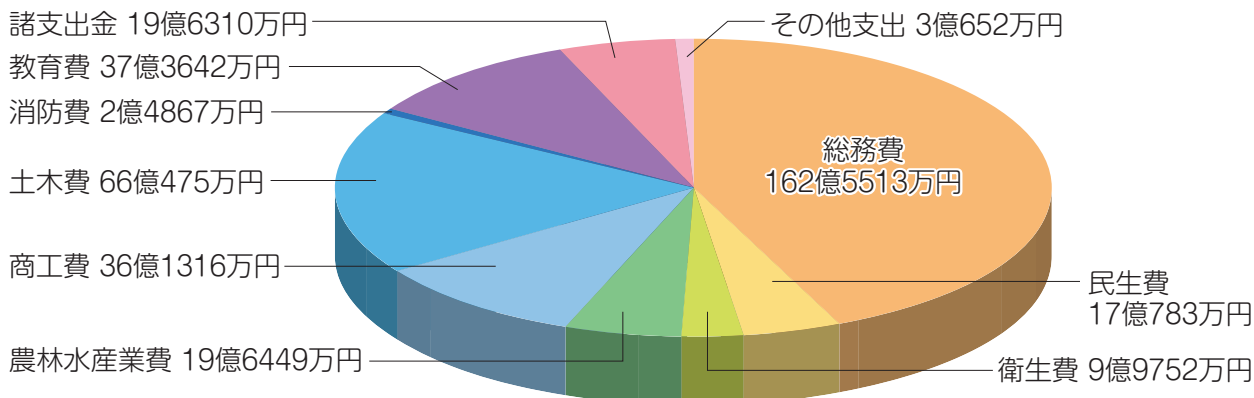
令和5年度決算認定 一般会計支出総額374億円

議会としては、令和5年度事業内容のうち、特に収入と支出の割合が大きい工事や委託について厳しく審査を実施しながら一般会計支出総額約374億円、特別会計支出総額約51億円を決算認定しました。主な内訳を報告します。

入ったお金 513億3402万円



出たお金 373億9759万円



特別会計支出 決算合計額：51億3457万円

会計名	収入総額	支出総額
坂下ダム施設管理	8056万円	6273万円
国民健康保険	20億7329万円	19億9158万円
奨学金貸与	1221万円	1109万円
環境保全公共下水道	6億2363万円	6億2134万円
農業集落排水	8453万円	2453万円

会計名	収入総額	支出総額
工業団地造成	28億2647万円	12億8153万円
介護保険・サービス事業	11億5387万円	10億8946万円
後期高齢者医療	3671万円	3629万円
霊園管理	1603万円	1602万円

(万円未満四捨五入)

効果的な予算編成 効率的な執行に努めるべき

代表監査委員より、決算および基金運用状況などの意見書が提出されました。

主な内容を報告します。

令和5年度末現在、財政調整基金が約99億5589万円、その他目的基金約913億4947万円と潤沢な財源を抱えながら、健全な財政運営を進めていると言える。

一般会計の不用額については、できる限り減額補正などで調整し、得られた財源を他の行政サービスに充てる姿勢が必要である。

改めて職員一人ひとりが財務規則を熟知され、効果的・効率的な予算編成・執行に努められたい。

各種補助金に関しては、その積算を明確にし、必要最低限を交付すべきである。補助金が町民から徴収された税金その他の貴重な財源で賄われているものであることに留意し適正な事務処理に努めることを望むものである。

基金については、設置された本来の目的を再確認し、住民サービスの向上へ反映されたい。

当町は、長期間にわたり健全な財務体質を維持している。健全な財政運営は自治体運営の要であり、引き続き費用対効果を検証する中で経費削減を図り、効率的な財政運営に努められたい。

条例制定・財産処分

第3回定例会にて条例制定および財産処分について審査しました。
主な内容をお知らせします。

大熊町手話言語に関する条例

手話言語の理解や普及等に関して、ろう者および事業者の役割を明らかにするものです。

町民等に理解推進を図り、暮らしやすい地域社会の実現に寄与することを目的に制定します。

下野上地区宅地分譲

町民の帰還および移住定住を促進するため宅地分譲を行います。



数量：17 区画分 (4,556.52㎡)

マイホームが楽しみ

人事

固定資産評価審査委員会委員

固定資産評価審査委員会委員の選任について全会一致で同意しました。



石名部 穰氏を新任

【住 所】

広野町大字下北迫字宮田

【任 期】

令和6年9月22日～

教育委員会委員

教育委員会委員の任命について全会一致で同意しました。



夏目 陽子さんを再任

【住 所】

夫沢字中央台

【任 期】

令和6年10月1日～



坂井 美佐子さんを新任

【住 所】

下野上字大野

【任 期】

令和6年10月1日～

帰還居住区域の 除染・解体進む

第3回定例会にて令和5年度決算等の審議を行いました。
その中から主な質疑を報告します。

特定帰還居住区域 除染・解体計画

問 区域の除染・解体の申し込み状況はどうなっているのか。

答 先に指定した下野上一区では同意率63・5%、住宅解体の進捗



丁寧な除染を望む

では受付19件、解体数7件である。
その他指定区域では関係町民597人へ意向調査を行い、今年8月末で同意率1・5%解体受付件数は60件となっている。

住宅促進事業

問 帰還者の住まいに対する補助事業の実績はどのくらいあるのか。

答 新築住宅16件、中古住宅2件、修繕16件賃貸住宅家賃補助26件となっている。

ゼロカーボン補助金

問 令和5年度の申請は何件あったのか。

答 省エネルギーフォーム7件、EV等4件、ZEH3件、緑化環境改善2件、太陽光パネル1件、蓄電池1件で総申請件数は18件となった。

生活循環バス

問 令和5年度の利用状況はどうなっているのか。

答 令和5年度は延べ9339人の方に利用

して頂き、前年度よりおよそ2倍の利用者数となった。

要因として居住者の増加と視察等により町への来訪者が増えたことが考えられる。

避難者コミュニティ補助金

問 町民より補助金の使用方法が厳しくなっているとの意見があるが理由は何か。

答 補助金の使途や経費の支出について適切な経理処理を行うよう通知を出した。

教育援助金・支援金

問 援助金と支援金の違いは何か。

答 援助金は町内に住所を有し、他市町村に通学する児童生徒の学用品等を支援する費用である。

支援金は町内に設置されている学び舎ゆめの森に通学する児童生徒を支援する費用である。

精神保健福祉対策

問 具体的な事業内容とは何か。

答 自殺の危険を示すサインに気づき適切な対応を図るゲートキーパーの人件費である。

※1 EV…電気自動車のこと
※2 ZEH…エネルギー収支ゼロを目指した住宅
※3 ゲートキーパー……命の門番

町の魅力を発信 東京公演開催



来場者を魅了します

第3回定例会にて令和6年度補正予算の審議を行いました。
その中から主な質疑を報告します。

きおくの森東京公演

町の復興を感じてもらいたい。

問 学び舎ゆめの森の児童・生徒と町民による演劇の東京公演との説明だが目的は何か。

帰還の促進や大熊町の魅力を発信することで町のマイナスイメージを払拭することを目的とする。

答 避難している町民に来場していただき、

町の復興を感じてもらいたい。

ふくしまの未来へ つなぐ体験応援

問 学び舎ゆめの森と他の地域の小中学校と共同で実施する事業とはどのような内容のものか。

喜多方市の小中学校と併当り体験をして販売活動を行う。

12月に県知事を表敬訪問し、県庁で弁当の販売を実施する。

自分たちで作った野菜やお米を活かした自慢の弁当などを開発する計画である。

妊婦にやさしい遠方出産支援

問 どのような事業なのか。また里帰り出産も該当するのか。

遠方での出産にかかる交通費および宿泊費を支援する事業である。

交通費では概ね60分以上の移動に要した費用の支援する。

また宿泊費は出産までの間、分娩施設付近で待機する妊婦と支援のために同行した者1名分を対象とする。

里帰り出産の場合は里帰り先住所からの交通費および宿泊費が対象となる。

大野駅西口商業施設

問 商業施設に光熱水費、人件費の補助金が令和5年12月から令和6年3月まで計上されたが、すべての店舗は当初予定の令和6年3

月には開店できるのか。

3月15日すべての店舗が開店の予定である。

なお店舗は居酒屋、中華、洋食店の5店舗物販店1店舗、コンビニ1店舗である。

インキュベーションセンター

問 建物保全計画調査とは何か。

運用開始から3年が経過し漏水等の不具合も発生している。

中長期的な視野に立った建物の劣化を考慮した評価を行う計画である。

問 町民号の再開を

答 令和8年度の再開をめざす



阿部 光國 議員
あべ みつくに

町政を問う 復興への課題をとらえて

阿部 震災前には、訪問先での歴史や文化に触れ、町民の親睦と融和を図ることを目的として町民号が実施されていた。

しかし、震災および原子力災害により全町避難を余儀なくされ、町民同士の絆が希薄になってしまった。

震災前のように21行政区の町民が一同に会し、お互いの安否を確認し合える機会を設けることで、町民の安心感と大きな喜びにつながる。

今こそ町民号を実施すべきと考える。

また実施にあたっては、大野駅の利用促進を図るためにも、鉄道

を利用しての町民号を実施すべきと考える。

町長の見解を伺う。

町長 町民号のような大規模な事業を行うには、参加者の安全対策や駐車場の確保が必要となる。

令和4年3月より大野駅周辺を含む下野上地区一団地事業に伴い基盤整備を開始している。駅西地区は令和7年度に基盤整備が終了すると考えている。

そのため、早ければ令和8年度の町民号再開を目指す。

問 再生賃貸住宅の追加の整備を

答 民間事業者の動向を踏まえ検討

阿部 令和6年には下野上地区内の大野南住宅エリアに30戸、原住宅エリアに20戸が整備され入居が進んでいる。

現在、再生賃貸住宅の入居状況は大川原地区の再生賃貸住宅を含めても満室で空きがない状態であり、入居希望者は部屋の空くのを待っている。

そこで、再生賃貸住宅を追加で整備すべきと考える。

町長の見解を伺う。

町長 住まいの確保は重要な政策としており再生賃貸住宅の建設に



もっと増えないかなあ

加え、自ら住宅を取得修繕等される際の補助や、民間事業者が賃貸住宅の修繕する際の補助をしている。

また賃貸住宅に入居される方に対する家賃支援など様々な政策を組み合わせながら、帰還や移住を促進するために取り組んでいる。

新たな再生賃貸住宅の整備については、町内の居住状況の推移や民間事業者による賃貸住宅の動向などを踏まえ検討していく。

渡部 友彦
議員



問 子育てしやすい町づくりの推進を

答 住んでよかったと実感できる町に

渡部 子育て環境を充実させることで、大熊町で子どもを育てたいと思う世代は多くいるのではないかと。

具体的には

- ① 0歳児おむつ補助
- ② 中学高校生制服補助
- ③ 高校入学一時金
- ④ 大学授業料補助

等が考えられる。

震災以前の「町づくりは人づくり」の原点に返り、子育てしやすい町づくりを推進することにより、移住定住者、帰還の促進にもつながると考えるが町長の所見を問う。

町長 すでに出産祝金として第1子、第2子には1人につき5万円、第3子以降は1人につき20万円を支給しており、おむつ代などの子育て支援の一助となっているものと認識している。

中学生への制服補助については、町立学校の児童生徒の保護者に対して町立学校児童生徒就学支援金を交付している。

他自治体に避難している児童生徒の保護者に対しては、被災児童生徒就学援助金を交付している。

また、高校生の制服

代補助、一時金の支給だが、高校生に対しては、福島県において授業料以外の教育費負担を軽減するための高校生等奨学給付金制度も実施されており、町で

の制度化は考えていない。大学授業料の補助については、経済的な理由で大学等への進学が困難な方に対しては基本的に奨学資金制度で

の対応を考えている。今後も安心して産み育てられる、住んでよかったと実感できる町づくりを進めていく。

問 社会教育事業の充実をはかるべき

答 町全体を学びの場とする

渡部 町では社会教育複合施設整備の計画を進めている。

しかし、現在高齢者母親世代、子どもたちの事業がほとんど行われていない。

今後施設を整備し社会教育を充実させていくため、今から町民の育成に取り組んでいくべきではないか。

立派な施設を造ったところで活動する町民が育っていないれば施設整備の意味がないの

ではないか。教育長の所見を問う。

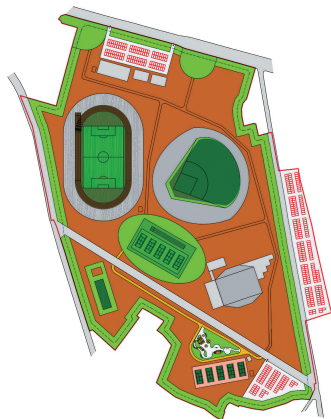
教育長 本年10月から、住民からの要望を活かして、13年ぶりに高齢者大学を大川原で再開しeスポーツや料理教室等の講座を計4回開催する。

今後は社会教育複合施設を基軸として、町全体が学びの場となるように社会教育事業の充実を図っていきたい。



のびのび学び すすく育つ

野球場、グラウンド等 整備計画が進む



7月26日、8月19日に委員会を開催し、現地調査、所管事務調査を行いました。
主な内容をお知らせします。

総合運動公園

多目的グラウンド、野球場、テニスコート、プール等を整備します。先行して多目的グラウンドの整備を行います。

委員からは、早期に農地転用を行うこと。また事業の申請後もレイアウト変更が出来るよう柔軟に対応すべきとの意見がありました。

文化財保護

町内の文化財の保管状況を確認しました。スポーツセンターにおいては町民から寄付を受けた文化財、公民館では古文書の管理状況を確認しました。

県文化財センター・白河館・まほろんでは、町で管理を依頼していた文化財の管理状況を確認しました。

委員からは、白河館まほろんにはいつまで保管出来るのか、文化財の整理を図りデータをデジタル化すべきとの意見がありました。

利用者の利便性を 考慮すべき

大熊IC

6月20日に委員会を開催し、大熊インターチェンジの現地調査を行いました。
主な内容をお知らせします。

大熊インター周辺の整備をするため現地調査をしました。

サービスエリアはインター西側に設置予定である。

東側の駐車場から徒歩で向かうためのトン

ネルを新たに設けることを確認しました。

委員からは、サービスエリアの設置にあたり利用者の利便性を考慮すべきとの意見がありました。



人とモノが行き交うエリアへ

大熊IC

町民の学び場づくりへ

7月17日の全員協議会にて生涯学習課より社会教育複合施設整備、ゼロカーボン推進課より原地区商業施設出店者決定について説明がありました。
説明要旨と主な質疑について報告します。

社会教育複合施設

公民館、図書館、博物館の3つの専門性を持った機能があります。それぞれが歯車となって町民の方をはじめ利用される全ての方の学びを支援する施設です。

主な質疑

問 公民館機能としての工作室や作業室が予定されているが、料理教室などを行う調理室もあるのか。

答 食で人を繋ぐという観点から公民館機能として取り入れたいがすでにリンクル大熊や保健センターに調理室があるので町内に同じ

施設は整備しない方向である。

問 大野駅の2階からダイレクトに社会教育複合施設にアクセスできるようにしてはどうか。

答 建物の管理上、入り口が複数あると少ない人数で管理するのは難しい。

入り口は1階部分のみを想定している。

原地区商業施設

7月12日にプレゼンテーションを行った結果、いわき市のマルトホールディングスに決定しました。

令和8年に完成し、令和9年より営業を開始する予定です。

主な質疑

問 店舗の規模はどの程度になるのか。

答 売り場面積は800から1200平方メートルで予定している。

広報研修会

9月25日に東京都で行われた町村議会広報研修会を受講しました。

研修は3部構成で初めに「読まれる議会広報紙の作り方について」次に「やってはいけないデザイン講座」のテーマで受講しました。最後に広報紙のコンクールで輝かしい受賞歴を誇る埼玉県寄居町議会の「読まれない議会」の編集方針を学びました。

研修を終え、これから町民の皆さんに手に取って読んでもらえる議会だよりを目指し編集に励んでいこうと決意を新たにしました。

今後の編集に活かします



議員報酬は妥当 調査特別委が断下す

大熊町議会議員の報酬及び費用弁償に関する調査特別委員会は9月定例議会最終日の9月20日、最終報告を行いました。

本特別委員会は3月定例本会議において町議員の報酬及び費用弁償の在り方を調査する目的として設置され5回に渡って協議を重ねてきました。

最終報告では議員報酬について近隣町村および県内同一規模町村と比較して大きな格差がないことなどから、現行の議員報酬は妥当であると判断しました。しかし、全国的に町村議員の報酬が低く、なり手不足の問題を抱えていることから、今後も調査を継続していくこととしました。費用弁償については町内で開催される行事に出席する場合、現行の規定では支給されていないのが現状です。

しかし、近年の物価上昇や燃料代の高騰などで移動に要する負担も大きくなっており、公務として参加すべき会議等に対する支給方法、支給額の見直しを図るべきであるとの意見で一致しました。

さらに、直面する課題は議会のみならず執行部に属する各種委員等にもおよびることから総括的に対応する必要性があると判断しました。

これらの観点から本特別委員会は、執行部に対して費用弁償の柔軟かつ弾力的な運用と関係例規の総括的な見直しを要望していくこととしました。

町外避難者を忘れないで 議会も同じ思い

7月20日にコミュニティ「大熊町の明日を考える会」に3名で参加し懇談しました。参加者から貴重な意見をいただき、有意義な懇談会になりました。一部内容を紹介します。

会員の声 議会の動向がよく見えない。コミュニティ参加実績や内容を議会だより等にもっと掲載し、議員の活動内容をもっとアピールしてはどうか。

会だより等に掲載してまいります。

議員から 今回のコミュニティ懇談会をはじめ、今後の活動についても活動報告とし議

会員の声 町外に避難生活をしている町民を忘れないで欲しい。

議員から 我々議会も同じ思いです。しっかりと行政側へも伝えます。



思いを受け取りました

伝統芸能を後世に継承を 大熊平馬会

大熊町の伝統芸能である盆踊りの練習を通して、町内外の若手有志が交流を深めています。また国の登録有形文化財となっている渡部家の除草作業など維持管理活動も行っています。

震災前は、8月のお盆の時期になると各地区の青年会などが盆踊りで太鼓と笛の音色を奏でて非常に盛り上がっていました。

今は全町避難の影響により各地区の盆踊りが出来ていない状況ですが、我々がその架け橋になればという思いと、大切な伝統芸能を後世に継承していけるよう、今後も活動していきたいと思っています。



祭りの盛り上げに一役買います



本番に向け汗を流しています

大熊平馬会 代表 愛場 学

傍聴に来てください

12月定例会は11日からの予定です

編集後記

おおがわらは先頃、じい部隊と移住者との住民交流会を行いました。

じい部隊は東日本大震災後およそ6年に渡り町民帰還のため、町の環境整備に尽力された活動を振り返り、改めて頭が下がる思いでした。

懇談に移り、移住して来たAさんは大学卒業後の就職活動の末、現在はまだちづくり公社で移住定住の仕事に就いています。住民との交流で日々充実した生活を送っていると目を輝かせていました。

Bさんは大学を休学し起業のためキウイ栽培に汗し、多くの方に助けられ支えられ商品開発、販売を行っていると感じていました。

移住者との交流を通じて、大熊町にしっかりと根を張ってもらえるよう応援していきたいと思いました。

島原 健二郎

広報公聴常任委員会

委員長 渡辺 誠 委員

副委員長 島原健二郎

発行責任者 仲野 剛

委員 渡部 友彦

石井 和弘

武内 正則

阿部 光國

廣嶋 公治